

農林水産大臣賞

みすみ
三角サトウキビ活性会（熊本県 宇城市）

サトウキビ栽培と黒砂糖づくりを核とした、世代を超えた連携や交流による住民参加型の地域づくり

1. 地区の概要

宇城市三角地区は、熊本県の中央部より西に突出した宇土半島の先端に位置する、有明海と不知火海に挟まれた海岸島しょ地域で、温暖な気象と潮風、肥沃な土壌を活かして、温州みかんや不知火類（デコポン）等の果樹のほか、県下最大の産地である洋ラン等の花きが生産されている。

2. 団体の概要

活性会は、6集落（上本庄、古場、大口、宮崎、手場、黒崎）の代表と女性部、地元小学校、JA有志会で構成され、年1回の総会ではサトウキビ作付面積の把握や製糖作業計画の作成、黒砂糖商品化計画の作成、イベントの企画検討が行われている。

3. 団体の取組み

耕作放棄地をサトウキビ栽培に活用することで、サトウキビ栽培から加工まで一貫して行うビジネスモデルが作られ、高齢者の収入確保が期待されるとともに、農地や農村環境の持続的な維持に貢献。

サトウキビの搾りかすは、サトウキビ畑に還元されるほか、かんきつ栽培の堆肥、トマトの床土にブレンドして活用する等、再資源化することで、地域における循環型生産の仕組みを構築。

地元の小学生を対象とした、30年以上続く黒砂糖づくり体験学習を通じた食育活動や、女性部が中心になって行う新商品開発、特産品づくり等、サトウキビ栽培という地域の伝統文化を継承するために幅広く活動を展開。

県内専修学校のSDGsに関する授業カリキュラムと連携し、「持続可能な地域活性化」をテーマにした交流会の開催、SNSを活用したPR方法の検討、サトウキビ収穫や黒砂糖製造体験への参加等、次世代に向けた世代間交流を実施。



黒砂糖づくりの様子（砂糖しめ）



小学生による搾汁体験



県内専修学校との交流会